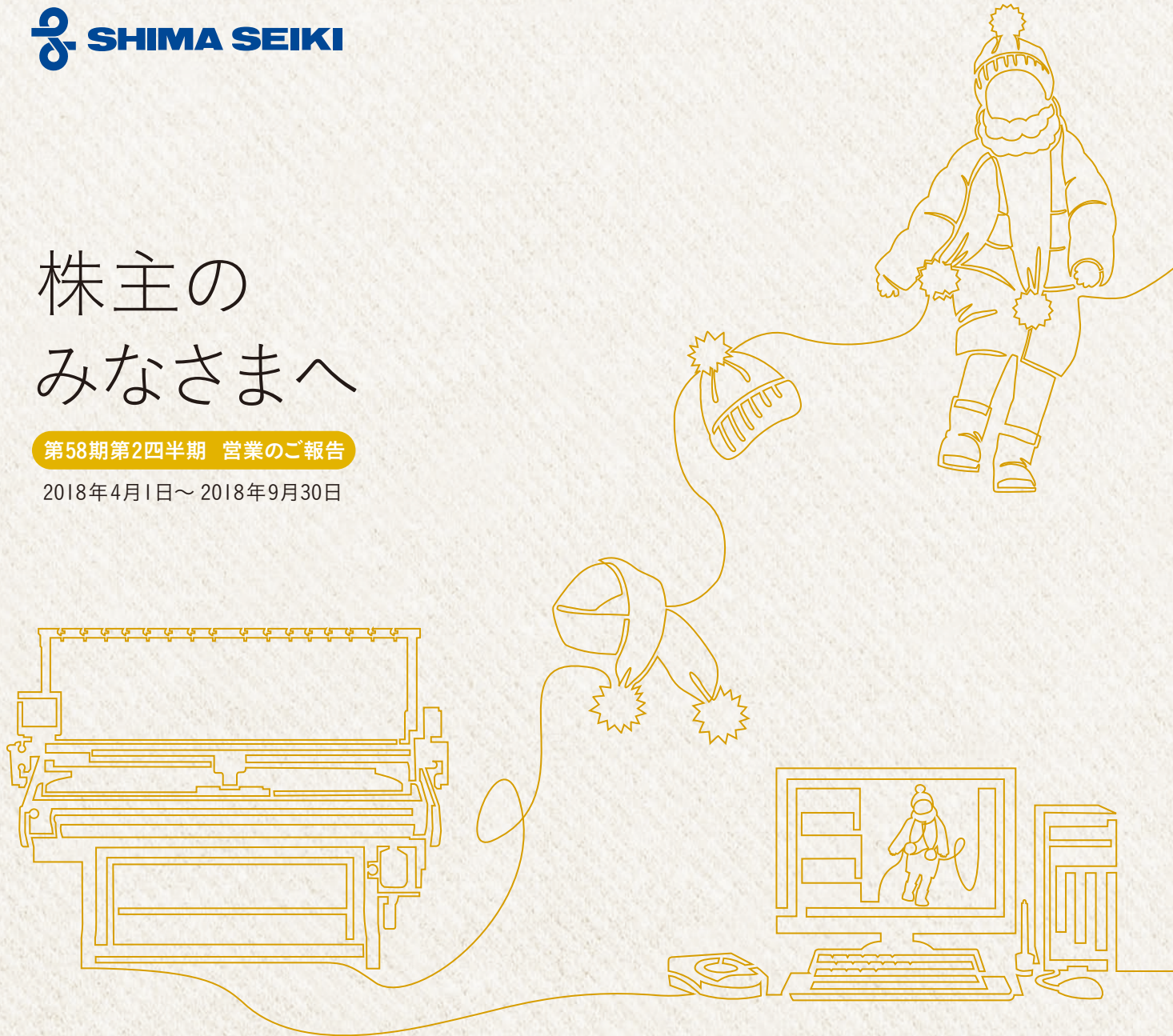


株主の みなさまへ

第58期第2四半期 営業のご報告

2018年4月1日～2018年9月30日





代表取締役社長
島 三博

全体業績は厳しい結果となりましたが、戦略商品であるホールゲーム®横編機の販売は大きく伸ばすことができました。

Q1 上半期(2019年3月期)の主な取り組みと業績について説明してください。

A1 アジア地域での従来型コンピュータ横編機の販売が落ち込み、減収・減益となりました。

上半期の業績は、減収・減益という厳しい結果となりました。連結売上高は281億97百万円(前年同期比20.7%減)の減収となり、利益についても、営業利益43億43百万円(同46.1%減)、経常利益46億28百万円(同47.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益33億12百万円(同49.3%減)と、いずれも減益となりました。

売上高が期初予想(340億円)を大きく下回った最大の要因は、アジア地域を中心に「SSR®」「SVR®」などの従来型コンピュータ横編機の販売が落ち込んだことです。特に従来型横編機の主力マーケットであるバングラデシュにおいて、2018年末に行われる総選挙による不安定な国内政治情勢から設備投資が停滞したことが大きく影響しました。

また、近年アジア市場で急速に拡大を続けてきたシューズ
 アッパー生産用途のコンピュータ横編機も、安価な中国製品
 の参入による競争環境の激化に加えて、オリンピックイヤー
 を目前にした、メーカーの在庫調整による設備投資の停滞
 などもあり、苦戦を余儀なくされました。利益面でも、売上
 高の減少に加えて販管費が増加したことなどで、期初予想
 を下回る結果となりました。

Q2 事業分野別の状況について説明してください。

A2 中国市場での受注拡大でホールガーメント横編機は倍増となりました。

横編機事業では、前述のようにアジア地域の従来型横編機
 の販売が低調な結果となりましたが、中東のトルコでは設備
 投資が回復し、前年同期比約3倍の売上高となりました。また
 ホールガーメント横編機についても、売上台数が前年同期
 比の約2倍と好調でした。特に中国市場ではSPA(アパレル
 製造小売業)型ニットメーカーでの販売拡大に加え、ホール
 ガーメント衣料に対する大手アパレルの関心も高まってきて
 おり、クイックレスポンスで、かつ高付加価値の「モノづくり」

へビジネスモデル転換を進めるべく、ホールガーメント横編機
 を導入する顧客企業が増加しています。先進国市場では、欧州
 でイタリアを中心に高付加価値でファッション性の高い商品づ
 くりによりホールガーメント横編機の活用が広がったほか、国内市
 場でも同様にホールガーメント横編機の販売が増加しました。

デザインシステム関連事業では、「SDS®-ONE APEX3」
 が横編機の需要動向に伴い、海外市場で前年から減収とな
 った一方、国内市場ではアパレルの製品デザインやE
 コマースなどニット産業以外の市場に販売が伸長し、前年
 同期比増となりました。自動裁断機「P-CAM®」の売上高
 は、ほぼ前年並みとなり、国内では非衣料、自動車関連での
 採用が進み、海外でも自動車関連などの異業種に展開が
 広がりました。

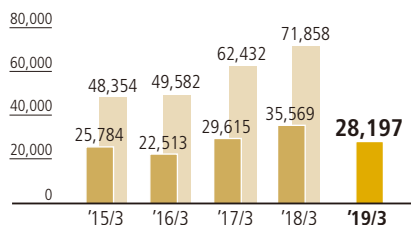
Q3 下半期からの主な取り組みと業績見通しについて説明してください。

A3 堅調なホールガーメント横編機を中心に、競合他社との差別化を鮮明にしていきます。

ホールガーメント横編機に関しては、上半期も各地域の
 お客様から旺盛な引き合いや受注をいただいております、その

売上高

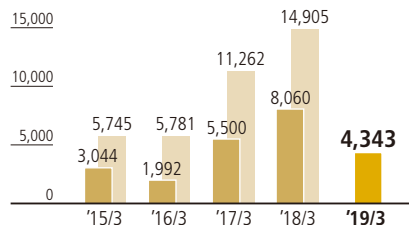
(百万円)



■ 第2四半期累計 ■ 通期

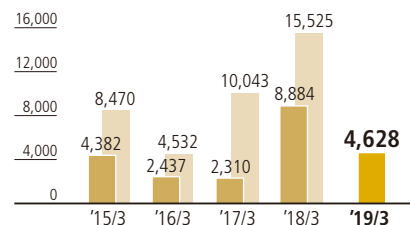
営業利益

(百万円)



経常利益

(百万円)



要望に対応するため、引き続き生産体制の強化を図っていきます。また下半期から中国やトルコ、バングラデシュなどの地域でホールガーメント横編機のエントリーモデルである「MACH2®S」の販売を強化していきます。

従来型コンピュータ横編機については、設備投資が低迷しているバングラデシュで、総選挙終了後、政治情勢の安定化が予想されます。これは設備の需要時期にも重なっており、同国の2019年1月以降の設備投資は回復が期待されるため、営業活動に注力していきます。また受注が停滞しているシューズアッパー生産用途の横編機に関しても、他社にできないデザイン表現など高品質な技術力で巻き返しを図っていきます。

しかし、当期内に売上・利益の急速な回復は見込みにくい状況なため、通期連結業績予想については、売上高580億円（前年同期比19.3%減）、営業利益80億円（同46.3%減）、経常利益82億円（同47.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益60億円（同46.8%減）と修正いたしました。

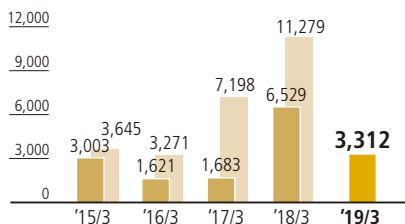
Q4 中長期的な事業展望について教えてください。

A4 「トータルファッションシステム®」による「もの創り」革新を提案していきます。

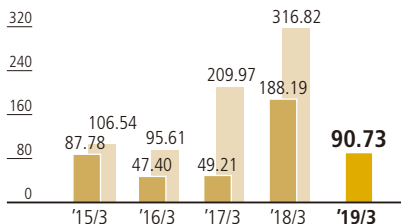
現在新たに注力している取り組みが、「デジタルヤーンプロジェクト」です。2018年10月に上海で開催された「ITMA ASIA+CITME 2018」で、紡績企業と共同出展し、糸（ヤーン）が持つ機能性や特性をデジタル化することにより、これまで現物サンプルを作って確認していた工程を、システム上でよりリアルなサンプル作成につなげ、完全なバーチャル化を目指します。企画から生産、最終消費者へのアプローチまで、サプライチェーンを一気通貫でデジタル化し、省人化・自動化による新たな「もの創り」の提案を展開していきます。

また、中期経営計画の重点課題の一つに「経営基盤の強化」を掲げています。ホールガーメント横編機の浸透でサポート人員の増員など、人材育成が重要課題です。今期に入り、社内における資格取得奨励制度やホールガーメント1級技術者など、技能検定制度を創設し、新たな取り組みもスタートさせています。

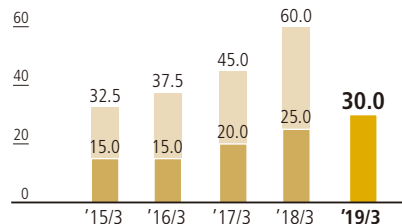
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)



1株当たり四半期(当期)純利益 (円)



1株当たり配当金 (円)



ITMA ASIA+CITME 2018に出展

過去最多の約1,700社が 多彩なソリューションを訴求

2018年10月、中国・上海で開催されたアジア最大規模の繊維機械展示会「ITMA ASIA+CITME 2018」に出展しました。過去最多の約1,700社が参加し、「スマートファクトリー（機械設備や管理システムがインターネットにつながった工場）」向けのソリューションが多数訴求されました。

「トータルファッションシステム®」による 一貫した「もの創り」を提案

当社は、各国の省人化・自動化のニーズに応え、IoT技術により効率的なサプライチェーンを可能にする「トータルファッションシステム」をテーマに、サステナブルな「もの創り」を訴求しました。糸から最終工程までを一貫通貫でデジタル化する「デジタルヤーンプロジェクト」による無駄のないスピーディな「もの創り」で、大幅なリードタイムの短縮など、課題となっている市場ニーズに即した提案を行いました。今後もこうした市場動向を踏まえ、アジア地域での営業活動を強化していきます。



その他、2019年6月には、世界最大の国際繊維機械見本市「ITMA 2019」の開催がバルセロナで控えており、全世界への提案に向けて取り組んでいきます。

Q5 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

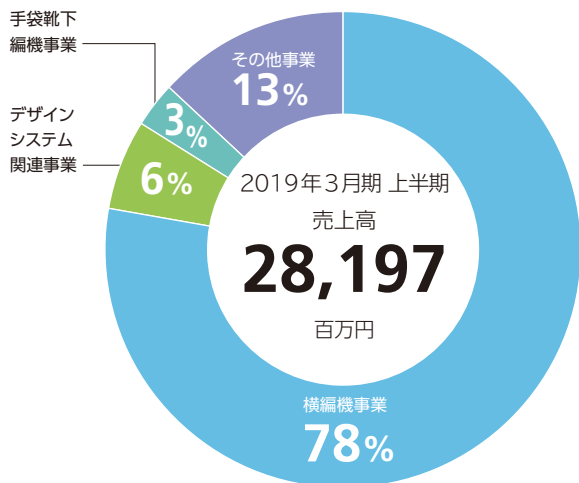
A5 社員一丸となってさらなる高みを 目指していきます。

当期の株主の皆様への配当金につきましては、当期より配当性向25%を目安に安定配当を続けることをお伝えしていましたが、業績予想の修正に伴い、誠に遺憾ではありますが、中間配当金は、当初予定の一株につき35円から30円に、また期末配当金については、現状では未定とさせていただきたいと存じます。

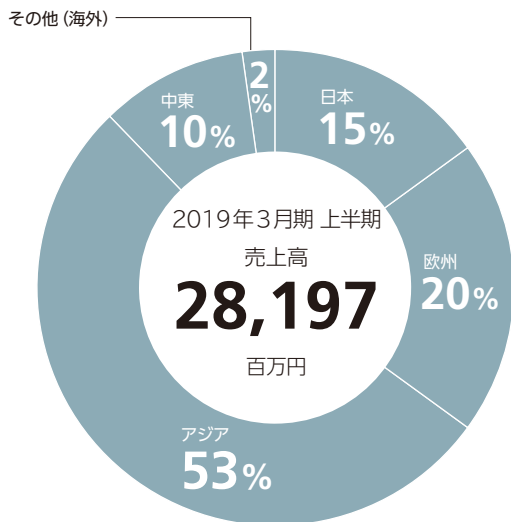
2018年6月からの執行役員制度導入などによって、当社では中堅幹部社員を中心に皆で知恵を出し合い、新しいアイデアに対して迅速に具体的な取り組みを進めていける社内体制が構築されてきています。これからも私たちは経営理念「Ever Onward—限りなき前進」のもと、社員一丸となって革新的な製品・サービスの開発・提供に取り組み、グローバルな視野を持って成長を目指していきます。

株主の皆様には、引き続き当社への温かいご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

事業別売上高構成比



地域別売上高構成比



 横編機事業

世界トップの技術力を誇るコンピュータ横編機は、当社の主力ビジネス。一着丸ごと立体的に編み上げるホールガーメント®横編機をはじめ、「SRY®」、「SVR®」、「SSR®」など、独自の開発力を生かした豊富なラインアップで進化し続けています。

 デザインシステム関連事業

さまざまな業界の「モノづくり」を支援するデザインシステムを提供。バーチャルサンプルや三次元シミュレーションを駆使し、多彩なデザインとリードタイムの短縮、コスト削減を実現します。また、自動裁断機による異業種への展開も積極的に進めています。

 手袋靴下編機事業

当社技術開発の原点である手袋編機、靴下編機。手袋編機はファインゲージ化も進め、医療用など高付加価値分野への対応を強化しています。

 その他事業

当社編機・システム機器のメンテナンス部品の販売や修理・保守、高級カシミア糸の紡績、ニット製品の販売などの事業を行っています。



従来型の横編機販売が減少

売上高
前年同期比
25.8%
DOWN
219.3
億円

営業利益
前年同期比
36.4%
DOWN
62.7
億円

- バングラデシュで従来型横編機の設備投資が停滞
- シューズ生産向け用途横編機の売上高が減少
- 中国、国内市場などでホールガーメント横編機の販売が伸長



横編機に連動して売上高が減少

売上高
前年同期比
5.7%
DOWN
18.6
億円

営業利益
前年同期比
24.9%
DOWN
4.2
億円

- 横編機販売の落ち込みに連動して海外で減少
- 国内はニット分野以外に販売が広がる
- 自動裁断機は国内外ともに非衣料分野に広がり、ほぼ前年並み



前期に比べて上半期は低調

売上高
前年同期比
4.7%
DOWN
8.2
億円

営業利益
前年同期比
16.1%
DOWN
1.6
億円

- アジア大手ユーザーへの導入が進んだものの、前期に比べ売上高はやや減少



部品の販売拡大で売上高は増加

売上高
前年同期比
13.3%
UP
35.6
億円

営業利益
前年同期比
67.3%
UP
6.5
億円

- 部品販売や紡績事業の販売が堅調

省力化にシマセイキの自動裁断機 P-CAM[®]が貢献

—— 株式会社トンボ様

「P-CAM[®]」はシマセイキの自動裁断機で、布や皮製品をはじめ、炭素繊維などを裁断する工程で用いられています。今回は、「トンボ学生服」で有名な株式会社トンボ様を訪問し、「P-CAM」を活用いただいている理由についてお話を伺いました。



株式会社トンボ
生産本部
スクール生産部 部長
もりもと やすのり
森本 康督 様

「スクールアイデンティティ」で学校ごとの学生服を普及

当社は1876年に創業し、1930年から学生服の生産・販売を開始しました。1976年に「スクールアイデンティティ」を提唱し、学校ごとに異なる学生服を普及させました。現在は、学生服、スポーツウェア、ヘルスケアが事業の3本柱です。

学生服製造の特殊性

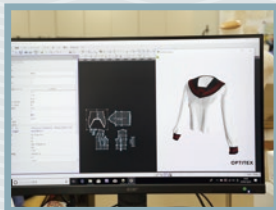
学生服の製造は、新学期前の3月に集中します。その種類は学校別×サイズ別と膨大で、超“多品種・短納期”生産です。

一方、3月以外は、追加オーダーなど1着の注文に即対応するため、年間平均は1回あたり14着作るという小ロット生産です。この特殊性が、一般のアパレル企業が参入しにくい要因であり、また、海外に生産をシフトできない理由となっています。

労働人口が減少する中で国内生産を続けるため、機械による

学生服の製造工程

学生服データの準備



注文された制服のデータを、蓄積した3D CADから瞬時に取り出し、1着から短納期で対応します。

げんたん 原反のピッキング



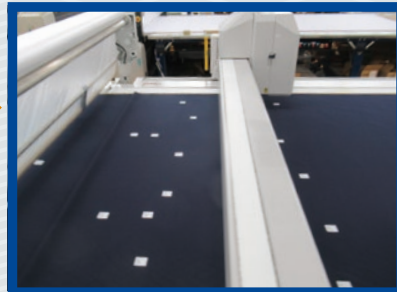
学校別に対応するため、約9,000種類もの原反(生地)を保管しています。

えんたん 延反



丸巻きされていた原反を、ねじれ、ゆがみのないように伸ばして次の工程に送ります。

ラベリング



シマセイキの自動ラベリングマシン「P-LAB[®]」でラベルを自動貼付し、カット後のパーツを識別できるようにします。



株式会社トンボ

創業 明治9年
 設立 大正13年5月10日
 資本金 2億6187万円
 従業員 1,400人
 本社 岡山県岡山市 / 東京都台東区
 URL <http://www.tombow.gr.jp/>



画像提供:株式会社トンボ様

省人化が喫緊の重要課題です。そこで今年、「自動化プロジェクト」を立ち上げ、自動化できる工程の洗い出しや搬送ロボット(右写真)の試験導入などを進めています。



裁断は品質と速度のバランスが重要

このような中、裁断機は製品の品質と生産性に大きく影響を与え、省力化の要となっています。

長らく海外製の裁断機を活用していましたが、小ロット生産が急増し、いかに生地1枚を速く裁断できるかという課題に直面した2008年、初めてシマセイキの自動裁断機[P-CAM]を導入しました。学生服は、少ない枚数を切るときの速度と精度の

バランスが重要ですが、「P-CAM」により品質を向上しながら、1着あたりの裁断時間を3分の2に短縮できました。現在、本社工場で6台が稼動しています。

また、海外製の裁断機はメンテナンス費用が高額で、故障のときの対応にも時間がかかります。シマセイキの「P-CAM」は予防保全で故障自体が少なく、故障した場合でも対応が早いので助かっています。

そのため、受注が拡大しているスポーツウェアの製造工場でも、「P-CAM」を随時、増設しています。

シマセイキへの期待

生産現場で困っていることに耳を傾け、製品化につなげてもらいたいと思っています。前後工程を含めたトータルでの自動化・省力化サポートを、これからのシマセイキに期待しています。

裁断



P-CAM

学生服は丈夫な布を使いますが、シマセイキの自動裁断機[P-CAM]が素早く安定的に裁断します。



縫製



ポケットなどの定型パーツは自動化したマシンで効率化。着心地を左右する部分は人の手で縫製します。

検品・梱包



検品後、ラインを整えるためのプレスを施した後、1着1着丁寧に箱に入れて出荷します。

自動裁断機を中心に“裁断”工程をトータルで効率化

シマセイキでは、自動裁断機「P-CAM®」のほか、自動延反機「P-SPR®2」、自動ラベリングマシン「P-LAB®」などを連携させることで、裁断に関わる一連の流れを自動化。デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」による型紙デザインと合わせて独自の「Shima Cutting Solutions(シマカuttingソリューション)」を提案しています。さまざまな分野のお客様ニーズに合わせて、生産現場での効率化をサポートしていきます。



延反

P-SPR2



ラベリング

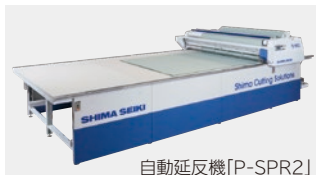
P-LAB



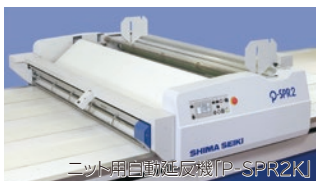
裁断

P-CAM

生地を必要な長さに自動でカットし、指定枚数に重ねて裁断し、次工程に送ります。

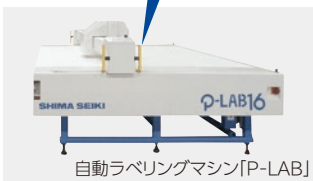


自動延反機「P-SPR2」



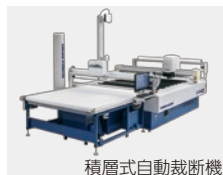
ニット用自動延反機「P-SPR2K」

サイズや品番などを印字したラベルを生地に自動で貼り付け、裁断後のパーツ仕分けを容易にします。

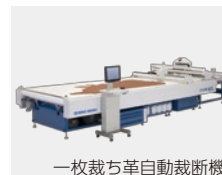


自動ラベリングマシン「P-LAB」

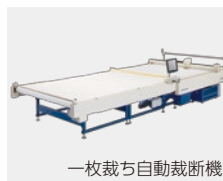
裁断目的に合わせた多様なラインアップで展開。裁断後の生地のピッキング作業も、プロジェクターを活用し、効率を高めます。



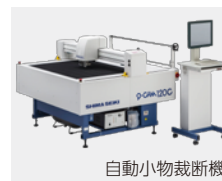
積層式自動裁断機



一枚裁ち革自動裁断機

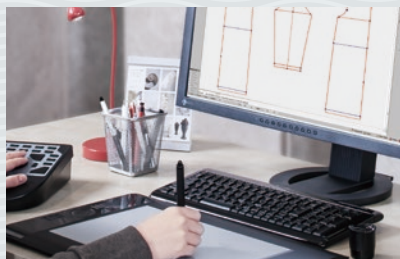


一枚裁ち自動裁断機



自動小物裁断機

「SDS-ONE APEX3」が裁断機分野の「モノづくり」もサポート



当社のデザインシステム「SDS-ONE APEX3」は、横編機分野だけでなく自動裁断機分野でも活躍しています。裁断に必要なパターンメイキング※1、グレーディング※2、マーキング※3まで行えるアパレルCADとして、パターン設計からサイズ展開、裁断までの一元化した流れをall in oneで効率化。「P-CAM」との連携により、デザインから生産までのワークフローをよりスムーズにし、クイックレスポンスに対応した「モノづくり」を支援しています。

※1 パターンメイキング：型紙(パターン)を作成。

※2 グレーディング：標準寸法の型紙をもとに、大小サイズの型紙に展開。

※3 マーキング：限られた生地内に型紙を配置し、余り布が最小になるように最適化。

Topics. 1

コンピュータ横編機が出荷台数20万台を達成

2018年6月、当社のコンピュータ横編機が出荷台数20万台を達成しました。コンピュータ横編機の第1号機「SNC」が出荷されたのは1978年12月。その後も数々の技術開発によって製品は進化し続け、1988年には大ベストセラーとなった第2世代コンピュータ横編機「SES[®]シリーズ」を発表。さらに1995年には、ホールゲーム横編機「SWG[®]」を初出荷しました。

当社のコンピュータ横編機の出荷台数が10万台を超えたのは初出荷から30年後の2008年。それから10年で20万台を達成できたのは、「最高機能の製品を経済的な価格でお届けする」というシマセイキスピリットのもと、社員一丸で取り組んできた結果です。今後はさらに高性能な製品で全世界のお客様のニーズにお応えしていきます。



Topics. 2

子会社を吸収合併し、人材・場所・設備を有効活用

当社は2018年10月、連結子会社のティーエスエム工業株式会社を吸収合併しました。ティーエスエム工業は、横編機の特徴ある板金加工を主として、近年では横編機部品の機械加工も行なうなど、シマセイキグループに関わるさまざまな生産を手がけてきました。

今回の合併は、間接業務を本社に集約するとともに、「人材」「場所」「設備」の有効活用を目的としています。その中で特に重要視する「人材」の有効活用では、従業員の仕事の幅を広げ、さまざまな業務に取り組むことによって個々がスキルアップし、その能力を発揮することで業績の向上につながると考えています。そして、当社グループの経営の効率化を図り、生産の最適化を実現させていくことで、継続的な安定成長を目指していきます。



連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期末	前第2四半期末	前期末	科 目	当第2四半期末	前第2四半期末	前期末
	2018年9月30日現在	2017年9月30日現在	2018年3月31日現在		2018年9月30日現在	2017年9月30日現在	2018年3月31日現在
流動資産	110,073	117,254	111,893	流動負債	23,061	31,857	26,018
現金及び預金	26,160	27,505	24,575	支払手形及び買掛金	2,710	3,954	4,466
受取手形及び売掛金	63,684	71,859	70,017	電子記録債務	1,157	1,317	1,325
その他	22,375	20,207	19,290	短期借入金	9,085	13,718	8,499
貸倒引当金	△ 2,146	△ 2,318	△ 1,989	その他	10,107	12,867	11,726
固定資産	44,773	40,228	42,444	固定負債	4,811	4,768	4,827
有形固定資産	24,357	22,717	23,514	負債合計	27,872	36,626	30,846
土地	11,582	11,322	11,392	株主資本	132,481	126,615	130,447
その他	12,775	11,395	12,121	資本金	14,859	14,859	14,859
無形固定資産	3,651	3,987	3,596	資本剰余金	25,867	25,867	25,867
のれん	3,276	3,665	3,246	利益剰余金	92,013	86,141	89,978
その他	374	322	349	自己株式	△ 259	△ 253	△ 258
投資その他の資産	16,764	13,522	15,334	その他の包括利益累計額	△ 5,525	△ 5,771	△ 6,969
投資有価証券	11,107	8,815	10,646	その他有価証券評価差額金	892	1,143	941
その他	7,404	5,912	6,227	土地再評価差額金	△ 7,003	△ 7,003	△ 7,003
貸倒引当金	△ 1,747	△ 1,205	△ 1,539	為替換算調整勘定	187	△ 135	△ 1,335
資産合計	154,846	157,483	154,337	退職給付に係る調整累計額	397	223	427
				新株予約権	3	—	—
				非支配株主持分	14	12	13
				純資産合計	126,973	120,856	123,491
				負債純資産合計	154,846	157,483	154,337

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期累計 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	前第2四半期累計 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	前期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで
1▶ 売上高	28,197	35,569	71,858
売上原価	14,591	18,479	38,419
売上総利益	13,605	17,089	33,438
販売費及び一般管理費	9,261	9,029	18,532
2▶ 営業利益	4,343	8,060	14,905
営業外収益	535	1,042	1,399
営業外費用	250	218	779
3▶ 経常利益	4,628	8,884	15,525
特別利益	—	41	54
特別損失	25	—	136
税金等調整前 四半期(当期)純利益	4,602	8,925	15,443
法人税、住民税及び事業税	1,144	2,653	4,214
法人税等調整額	144	△ 259	△ 53
四半期(当期)純利益	3,313	6,531	11,281
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益	0	1	2
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	3,312	6,529	11,279

POINT

1▶ 売上高

主力の横編機事業において、バングラデシュで設備投資が停滞したことや、シューズアップー生産用途のコンピュータ横編機の販売が落ち込んだことにより、アジア地域での売上が減少しました。これらの結果、売上高は281億97百万円(前年同期比20.7%減)となりました。

2▶ 営業利益

売上高が大きく減少したことに加えて販管費が増加したことなどで、営業利益は43億43百万円(前年同期比46.1%減)となりました。

3▶ 経常利益

営業外損益に大きな増減はなく、経常利益は46億28百万円(前年同期比47.9%減)となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期累計 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	前第2四半期累計 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	前期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで
4▶ 営業活動による キャッシュ・フロー	4,757	2,862	9,397
5▶ 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,859	△ 1,430	△ 4,843
6▶ 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,596	7,578	1,731
現金及び現金同等物に 係る換算差額	293	△ 103	△ 348
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	1,594	8,907	5,937
現金及び現金同等物の 期首残高	24,223	18,286	18,286
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	25,818	27,193	24,223

4▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

たな卸資産の増加や法人税等の支払いなどの資金の減少項目はありましたが、売上債権の減少などで47億57百万円の資金の増加となりました。

5▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出などにより、18億59百万円の資金の減少となりました。

6▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払いなどにより、15億96百万円の資金の減少となりました。

会社概要

会社概要 (2018年9月30日現在)

商号 株式会社島精機製作所
 (英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.
 本社 和歌山県和歌山市坂田85番地
 創立 1962年2月4日
 資本金 148億5,980万円
 従業員数 1,394名(連結2,021名)
 事業内容 コンピュータ横編機
 デザインシステム
 自動裁断機
 手袋靴下編機 などの開発、製造、販売



本社ビル

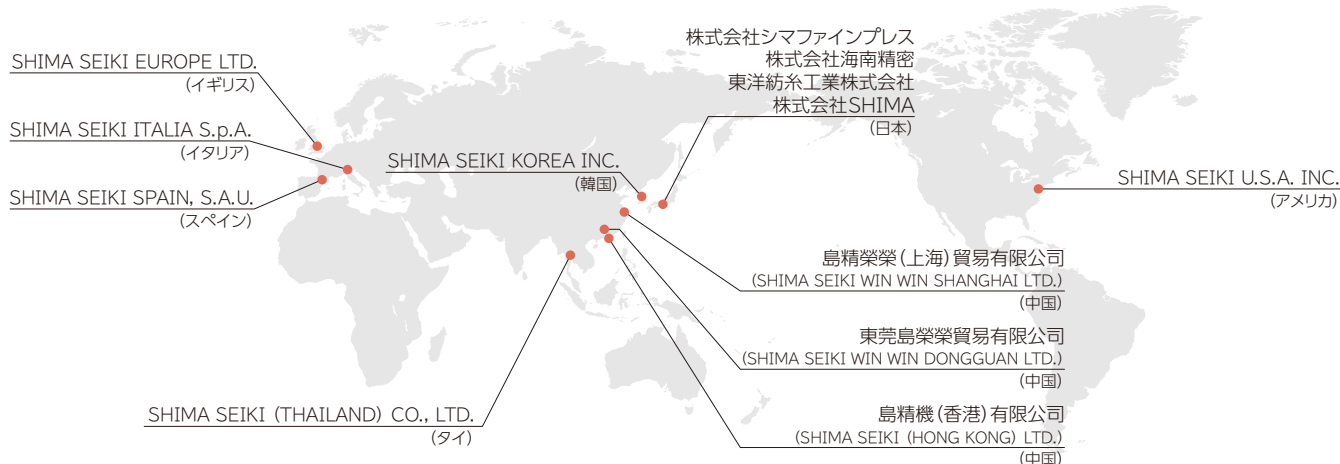
役員 (2018年9月30日現在)

地位	氏名	担当及び重要な兼職
代表取締役会長	島 正博	
代表取締役社長	島 三博	執行役員兼経営企画部担当
専務取締役	梅田 郁人	執行役員営業本部長兼 トータルデザインセンター担当
常務取締役	有北 礼治	執行役員資材部長兼 生産本部担当
取締役	南木 隆	執行役員経理財務部長兼 総務人事部、管理部、物流部担当
取締役	西谷 泰和	執行役員開発本部長
取締役	西川 清方	執行役員営業統括部長
取締役	一柳 良雄	株式会社一柳アソシエイツ 代表取締役&CEO / キャスター
取締役	残間 里江子	株式会社キャンディッドプロデュース 代表取締役社長 / プロデューサー
常勤監査役	植田 光紀	
常勤監査役	戸津井 久仁	
監査役	新川 大祐	北斗税理士法人 代表社員
監査役	野村 祥子	堂島法律事務所 パートナー弁護士

(注) 1. 取締役 一柳良雄、残間里江子の両氏は、社外取締役であります。

2. 監査役 新川大祐、野村祥子の両氏は、社外監査役であります。

連結子会社 (2018年10月1日現在)



株式概要

株式の状況 (2018年9月30日現在)

- ①発行可能株式総数…………… 142,000,000株
- ②発行済株式の総数…………… 36,600,000株
- ③株主数…………… 13,368名
- ④大株主

(千株未満切り捨て)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
和島興産株式会社	4,020	11.01
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,670	4.57
株式会社紀陽銀行	1,472	4.03
MSCO CUSTOMER SECURITIES	1,469	4.02
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,080	2.96
島正博	1,070	2.93
島三博	1,061	2.91
株式会社三菱UFJ銀行	880	2.41
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	853	2.34
合同会社和光	780	2.14

(注) 当社は、自己株式88千株を保有しています。
持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

マイナンバーお届出のご案内

マイナンバー制度に関する手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係手続きが必要となります。このため、株主様からお取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

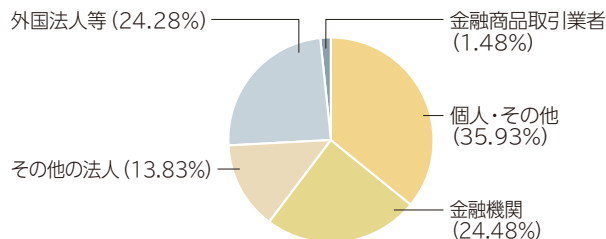
株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には、株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

主な支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

所有者別分布



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 基準日 3月31日
開催日 毎年6月

配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

公告方法 電子公告

下記当社ホームページに掲載
(<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-0044
大阪市中央区伏見町3丁目5番6号
TEL 0120-094-777 (通話料無料)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

TEL(073)471-0511(代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

SHIMA SEIKI、シマセイキ、WHOLEGARMENT、ホールガーメント、MACH2、SWG、SES、SSR、SVR、SRY、SDS、SDS-ONE、SDS-ONE APEX、P-CAM、P-LAB、P-SPR、TOTAL FASHION SYSTEM、トータルファッションシステムは株式会社島精機製作所の日本及びその他の国における登録商標または商標です。

この冊子に記載されている各種名称、会社名、商品名などは、各社の登録商標または商標です。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



この報告書は環境にやさしいベジタブルインキを使用しています。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。